

## 令和4年度第1回 高齢者福祉計画作成協議会議事録

### ○日時

令和5年1月26日（木）19:00～

### ○場所

小郡市役所 本館3階 大会議室

### ○協議事項

- 第9期小郡市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について
- 第9期小郡市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の市民意識調査（アンケート）について

### ○協議内容

市民福祉部長からの開会のあいさつ、委員交代の報告、副会長選任、会長、副会長あいさつの後、会長の議事進行で、事務局より、配布資料を使用しながら、第9期小郡市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について、第9期小郡市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の市民意識調査（アンケート）について説明。

以下のような質疑応答が行われた。

（委員）

調査票は白黒印刷になるのか。回収率を上げるために、民生委員の協力を得たらいいのではないかと。

（事務局）

白黒になります。無作為抽出のため、誰に送付するかは民生委員には分からないが、民生委員が集まる会議等でアンケート送付の周知を行っていききたい。

（委員）

11 ページ（5）「地域の中で支えてほしい・支えたいものはありますか（有償も含めて）」には、回答に「その他」があってもいいのではないかと。

（事務局）

「その他」を追加します。

（委員）

3年前や6年前のアンケート調査と傾向分析するかと思う。特に、①の一般高齢者へのニーズ調査について、3年前とはコロナの影響により状況が違う。コロナの影響がどこにどう出るか分からないが、その状況が数値として出てくるだろう。その時に、その数値がコロナなのか、その他の要因なのか、非常に難しいと思うが、気を付けて分析してほしい。

例えば、10 ページの「地域での活動について」など。前回週1回だったものが、月1回になっていないか。それがコロナなのか。そうであれば計画として使えるものなのか、危惧している。国の必須項目ではあるが。

日常生活の中でも、ここ3年間で大きく変化している。情報機器の使用でも何をもって変化していると判断するのか。電話番号を調べるとあるが、今ではスマホに電話番号を登録しており、わざわざ調べる必要はなく、ボタンを押すだけである。そのような状況を踏まえて傾向分析をしてほしい。

（事務局）

今の状況を踏まえて、市の独自の質問は表現を変えるよう見直したい。

(委員)

計画書に記載の施策内容について、コロナの影響があったとして、そのまま施策に反映していいのかどうか。手間がかかるだろうが、単純にアンケートの結果だけではなく、きめ細かい分析をお願いしたい。また、計画書に各目標値を設定しているが、実績が目標達成できたのか、評価してほしい。

(委員)

日常生活圏域ごとの分析は良いことだと思う。圏域の中の課題について、自分たちが働いている圏域がどのような状況なのか、知った上で活動を行っていく。意識することが大切。

私どもでも、訪問した時にアンケートが届いていたら声かけをしたり、行政と協力、連携を図っていきたい。

(事務局)

ケアマネジャー等にも相談し、連携を図っていきたい。

(委員)

成年後見制度を「利用したくない」と回答した人に、なぜ利用したくないのか、その理由を聞いてほしい。

(事務局)

理由を追加します。

(委員)

調査の対象は高齢者を行政区ごとに振り分けるのか。

(事務局)

アットランダムに送付するが、分析は校区ごとに行う部分もある。

(委員)

アンケートの検討は今回だけか。

(事務局)

今回だけです。ただし、協議会后、資料を見られてご意見等ありましたら、添付の「意見書」にて連絡いただければと思う。

(委員)

対象1,000人というのは、どれくらいの割合か。

(事務局)

一般高齢者の調査で言うと、高齢者人口約17,000人、その内要介護認定者2,000人弱なので、15,000人に対して1,000人に送るので、15人に1人の割合となる。

(委員)

もう少し多くの人に送る方がいいと思う。または、回収率を上げる取り組みをした方がいいのではないか。

(委員)

調査する人数については、国は何か基準を出しているのか？

(事務局)

送る人数は示されていないが、回収数は400以上必要と示されている。

最後に、事務局から本日の協議結果を反映した調査を実施する旨報告したのち、本協議会は終了した。